

東北地方 1か月予報

(2月28日から3月27日までの天候見通し)

平成16年2月27日
仙台管区気象台発表

<特に注意を要する事項>

向こう1か月は寒暖の変動が大きいでしょう。

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の実現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

気圧の谷が数日の周期で通過し、期間の前半は気圧の谷の通過後冬型の気圧配置となるでしょう。平年と同様に、東北日本海側では曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では晴れる日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年並、降水量は平年並が多い、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並か低い、2週目は平年並、3～4週目は平年並か高い見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



低い(少ない) 平年並 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



低い 平年並 高い

<予報の対象期間>

1か月 : 2月28日(土)～3月27日(土)

1週目 : 2月28日(土)～3月5日(金)

2週目 : 3月6日(土)～3月12日(金)

3～4週目 : 3月13日(土)～3月26日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は3月5日

3か月予報：3月25日(木) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温 ()	降水量 (mm)	日照時間 (時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	3.1	81.8	158.0	1.9	2.5	3.8
新庄	1.6	105.6	105.0	0.3	1.0	2.3
若松	2.5	60.5	129.4	1.0	1.8	3.4
深浦	2.2	73.3	104.6	1.0	1.6	3.0
青森	1.6	68.1	127.1	0.2	0.9	2.4
むつ	1.0	73.2	139.1	-0.3	0.3	1.8
八戸	1.8	47.8	160.2	0.5	1.2	2.7
秋田	2.8	87.1	121.2	1.5	2.1	3.6
盛岡	1.4	72.0	155.4	-0.1	0.7	2.3
宮古	2.6	82.1	170.0	1.4	2.0	3.3
酒田	3.8	96.0	112.5	2.6	3.2	4.6
山形	2.6	62.9	135.7	1.2	2.0	3.5
仙台	4.1	65.2	170.3	2.9	3.6	4.8
石巻	3.3	62.4	176.6	2.1	2.8	4.1
福島	4.4	68.3	166.6	3.1	3.8	5.3
白河	3.1	63.3	170.8	1.8	2.6	4.0
小名浜	5.8	93.8	177.5	4.8	5.4	6.5

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.4~+0.5	84~112	94~107
東北日本海側	-0.4~+0.4	88~107	93~107
東北太平洋側	-0.4~+0.5	80~118	96~106

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.7~+0.7	-0.6~+0.7	-0.3~+0.5
東北日本海側	-0.7~+0.7	-0.6~+0.6	-0.3~+0.6
東北太平洋側	-0.7~+0.7	-0.7~+0.6	-0.3~+0.6

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、それぞれの階級が実際に起こると予想される割合を表しています。信頼性の大きい予測資料が得られた場合には気候的出現率(階級の定義から各階級とも同じで33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、信頼性が小さい場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成16年2月27日 仙台管区気象台

1. 実現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(2月28日~3月27日) :

気圧の谷が数日の周期で通過し、期間の前半は気圧の谷の通過後冬型の気圧配置となるでしょう。平年と同様に、東北日本海側では曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では晴れる日が多いでしょう。

平均気温は平年並ですが、寒暖の変動が大きいでしょう。

1週目(2月28日~3月5日) :

気圧の谷が数日の周期で通過し、通過後は冬型の気圧配置になる見込みです。東北日本海側は雪や雨の日が多く、東北太平洋側でも明後日(2月29日)は天気のくずれる所があるでしょう。

平均気温は平年並か低いでしょう。

2週目(3月6日~3月12日) :

気圧の谷が数日の周期で通過し、通過後は冬型の気圧配置となるでしょう。平年と同様に、東北日本海側では曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では晴れる日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

3~4週目(3月13日~3月26日) :

天気は数日の周期で変化するでしょう。

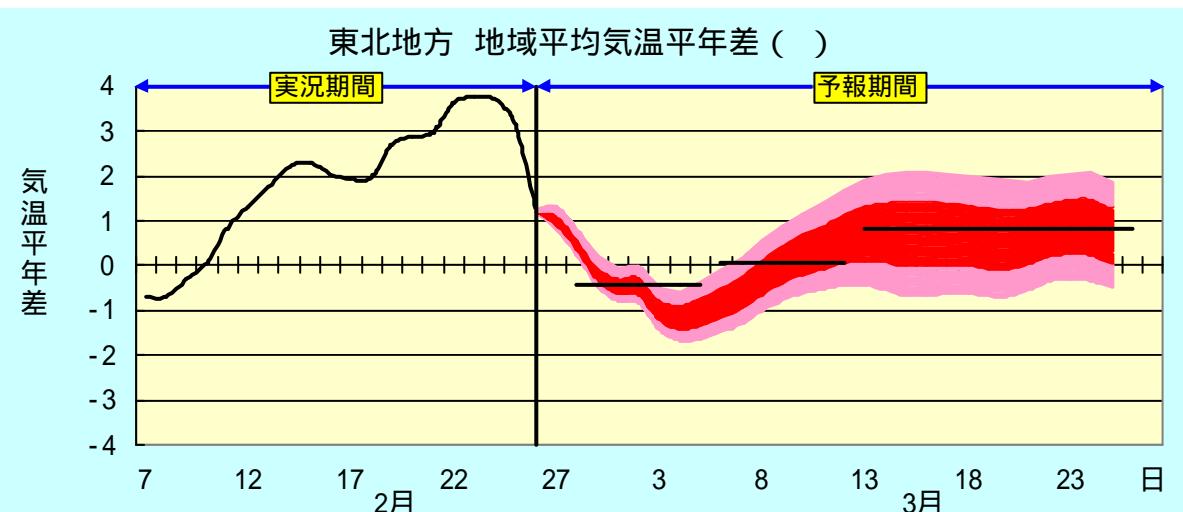
平均気温は平年並か高いでしょう。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	11.6日	2.4日	2.7日	6.4日
東北太平洋側	18.1日	4.6日	4.5日	9.2日

2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目と2週目は「平年並」、3~4週目は「高い」と予測している。予報は、その他の資料から、1週目を「平年並か低い」、3~4週目を「平年並か高い」に変更する。なお、数値予報の信頼度は大きい。



* 実況期間(図の左側)の太い実線: 東北地方地域平均気温平年差の実況値。(7日平均値)

* 予報期間(図の右側)には7日平均気温の予測に対する信頼の程度が40%の幅(濃い赤の範囲)と信頼の程度が70%の幅(濃い赤と薄い赤の範囲)を表示

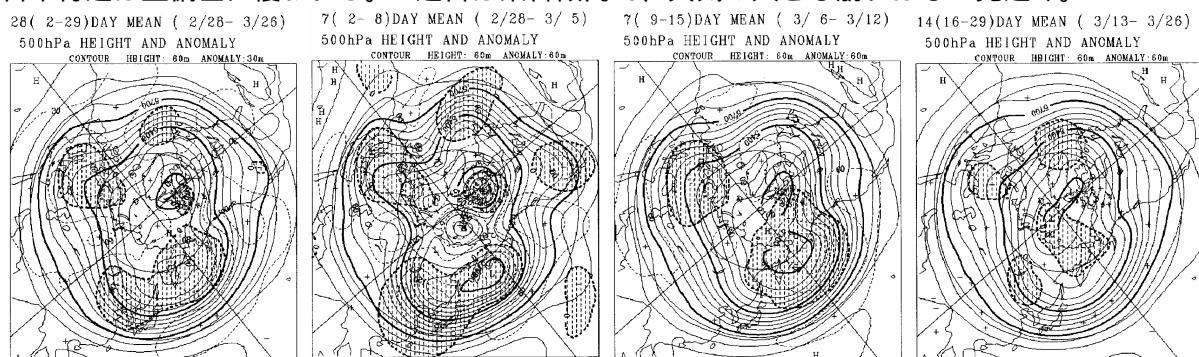
* 水平な3本の実線: 予報期間の1週目、2週目、3~4週目についての多数の平均。

3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、極域は正偏差。中緯度は、北海道から黄海付近まで負偏差に覆われるが、東北以南は正偏差となる。北日本は寒気の影響を受けやすいが、西谷傾向で南からの暖気の影響もあり、寒暖の変動が大きい見込み。

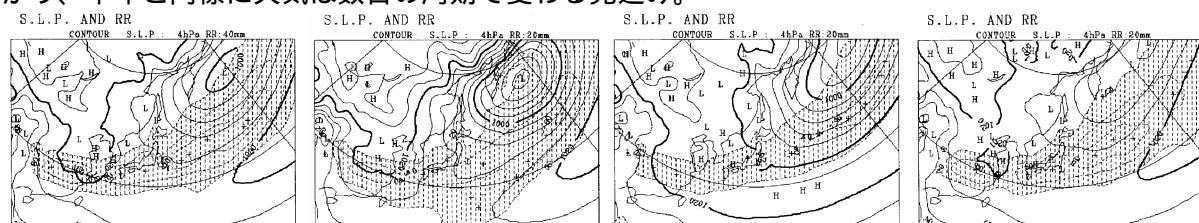
週別に見ると、1週目日本域は広く負偏差で、アリューシャン付近の低圧部が明瞭。2週目以降、日本付近は正偏差に覆われる。2週目は東谷傾向で、天気の大きな崩れはない見込み。



地上気圧と降水量：

月平均では、冬型の気圧配置だが、等圧線の間隔が広く周期変化。降水域は日本付近に広くかかるが、降水域の中心は東日本から日本の南海上。

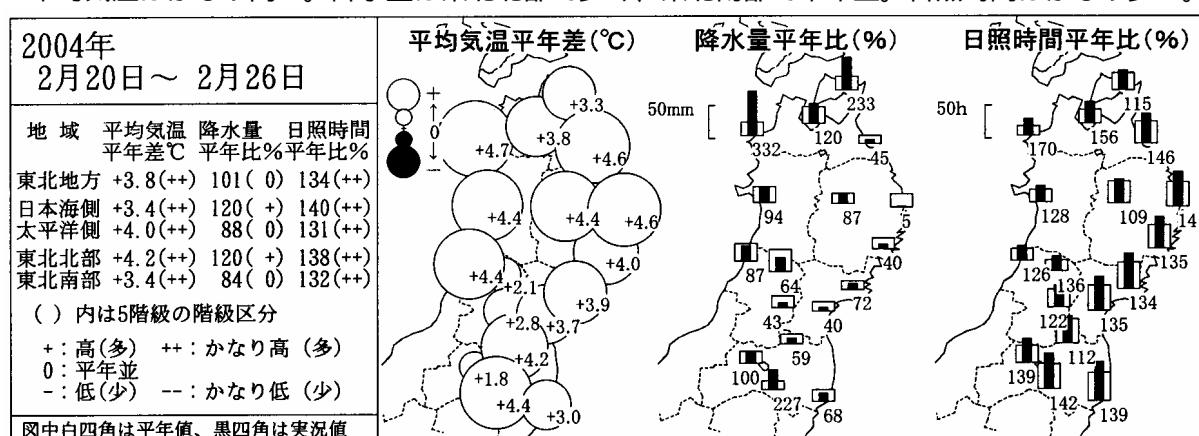
週別に見ると、1週目は冬型の気圧配置で、アリューシャン低気圧が強い。北日本は2週目も冬型の気圧配置となるが、等圧線の間隔は広がり周期変化。3~4週目は等圧線の間隔がさらに広がり、平年と同様に天気は数日の周期で変わる見込み。



4. 最近1週間（2月20日～2月26日）の天候の経過

この期間、20~22日は移動性高気圧に覆われて概ね晴れた。22日夜以降は低気圧や寒冷前線が短い周期で東北地方を通過し、通過後は冬型の気圧配置となった。特に、23日は冬型の気圧配置が強まり、暴風により青森県では1名が死亡した他、東北各地で被害が発生した。また、22日は日本海の低気圧に向かって暖気が流入したため各地で高温となり、秋田、八戸、酒田、福島は2月として日最高気温の極値を更新した。

平均気温はかなり高い。降水量は東北北部で多く、東北南部で平年並。日照時間はかなり多い。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)